



# 40周年記念誌について 【概要版】

40周年記念誌作成WG

# 【経緯】

土木技術者女性の会は1982年度に設立



2022年は設立40周年を祝う年！！

⇒ 設立40周年記念で **記念誌を作成**

- ・ 節目の年を機に、これまでの当会の歩みをまとめる
- ・ 会員や関係する皆様に、未来に向けての展望を  
考えていただく機会

# 【概要】

## ○記念誌：電子ブック化・ウェブサイト上で公開

### 〔記念冊子作成の内容〕

- ・ 歴代会長へのインタビュー
- ・ 会誌「輪」にて過去の変遷をたどる
- ・ メールニュースの蓄積確認
- ・ 30周年記念式典までの  
とりまとめ内容確認
- ・ 40周年に至るまでの年表作成

(A4サイズ約60ページのボリューム)



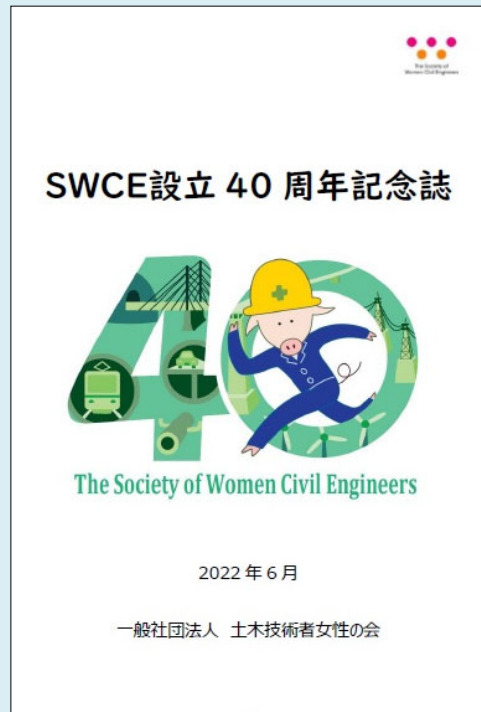
他

## ○公開時期：2022年度内

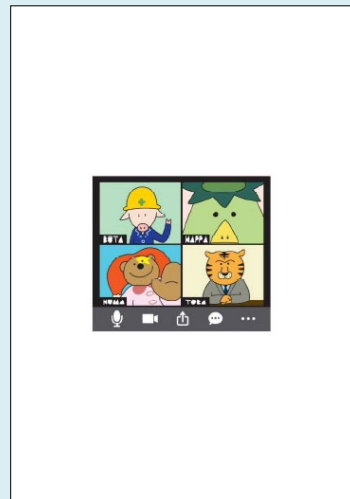
※全会員宛にアナウンス予定

# 【記念誌を飾るイラストの紹介】

## 表紙デザイン



## 裏表紙デザイン



## 〔表紙・裏表紙のイラストについて〕

### ・須田好さんのデザイン

(須田久美子運営委員のご令嬢)

### ※須田好さんからのコメント

「会員の多様な活躍の場を表すと共に、今後のデジタル社会における活躍を期待して作成した」

(須田好さんは、これまで会のシンボリックな存在であった「ぶたさん」のイラストの作者でもあります。記念誌内には過去の「ぶたさん」があちらこちらで見ることができますので、ぜひ探してみてください)

# 【コンセプト】

## 設立40周年 どぼくの未来を創り続けるために

2012年、私たち土木技術者女性の会は、  
設立30周年の節目に「どぼく未来宣言」を発表しました。

その後、土木を取り巻く環境が人々の暮らしに及ぼす影響力は  
さらに膨らんでいます。地球規模に及ぶ環境の変化、未曾有の  
自然災害との直面、そして新型コロナウイルス感染症の脅威の前に、  
人々は翻弄されつつも、新しい暮らし方を模索しています。  
私たち土木技術者も、時代に合わせた将来像を模索している状況です。



しかし、そのような状況にあっても、先の「どぼく未来宣言」に記載された、  
土木が果たすべき使命、そして土木技術者が果たすべき役割は、内容の幅が広がり、  
深みが出てきたことによって、さらにその重要性が増してきたように思います。

「人類」「地球」「宇宙」を視野に、「過去」「現在」「未来」をつなぎ、  
未来を輝かせるために現在を生きる私たち。

引き続き、私たちは、土木技術者の自覚を胸に、これからの土木の未来を創り続け、  
新しい社会を支えてまいります。

2022年6月  
土木技術者女性の会

# 【コンセプト】

〔設立30周年記念イベントにて宣言した内容〕



## どぼく未来宣言

土木は、人々の命と暮らしを守り、真の幸福をもたらすという重大な使命を担っています。  
わたしたち土木技術者は、常に自然災害の脅威に対して真摯に向き合い、それぞれの地域特性と社会特性に適合した自然と人間の共存のあり方を工夫し、自ら技術と人間性の研鑽に励むと共に、これを次世代に伝える努力を続けます。

2012年6月22日  
土木技術者女性の会

### \*記念誌を作成するにあたって\*

設立40周年記念誌を作成するにあたって、設立30周年記念に宣言した「どぼく未来宣言」を、どう引き継ぐことができるか、を念頭に入れて考えました。

そして、設立40周年を迎える“いま”から、10年後の設立50周年へ“つなぐ”ことを意識して、「過去」「現在」「未来」の3つのテーマを軸に製作することに決めました。

# 【目次】

## 巻頭言 (牛山会長)

## 第1章 会の現況

会員数の推移、会計規模の経過他

## 第2章 会のこれまでの歩み

法人化、WG活動、CEへの扉作成他

## 第3章 設立40周年記念 元会長インタビュー

歴代会長へのインタビュー

「それぞれの過去・現在・未来」

## 第4章 若手会員による座談会

～建設業界で女性がもっと活躍するために～

### 目次

巻頭言 土木技術者女性の会設立40周年記念誌の発刊について———第1代会長 牛山 育子 40周年記念誌作成にあたってのコンセプト 土木技術者女性の会 活動の目的	
第1章 土木技術者女性の会の現況	1
1. 会員数の推移	2
2. 活動の状況	3
3. 支部の構成	4
第2章 土木技術者女性の会のこれまでの歩み	5
0. 年表	6
1. 黎明期 (1983～1992年)	8
※コラム：初代事務局長へのインタビュー	
2. 充実期 (1993～2002年)	12
※コラム：女性土木技術者の歴史を動物で表すと	
※コラム：坑内労働の女性制限撤廃に向けた取り組み	
3. 飛躍期 (2003～2012年)	18
※コラム：ベシウォール会代表中村氏からのバトンをつなぐ	
4. 発展期 (2013～2022年)	24
第3章 設立40周年記念 元会長インタビュー	29
1. 初代会長 寺本 和子 氏 (0000～0000年)	30
2. 第2代会長 正木 啓子 氏 (0000～0000年)	34
3. 第3代会長 所 穂子 氏 (0000～0000年)	38
4. 第4代会長 佐藤 厚子 氏 (0000～0000年)	42
5. 第5代会長 桑野 玲子 氏 (0000～0000年)	46
6. 第6代会長 渡邊 弘子 氏 (0000～0000年)	50
特別寄稿 山田 邦博 氏	54
第4章 若手会員による座談会 ～建設業界で女性がもっと活躍するために～	55
※コラム：将来構想WGで語られた会の未来について	
編集後記	63
参考資料	
1. 坑内労働WG報告書	
2. 設立30周年記念イベントポスター集	
3. 法人化検討WG報告書	
4. 将来構想WG報告書	

# 【第1章：会の現況】

## 第1章

### 土木技術者女性の会の現況



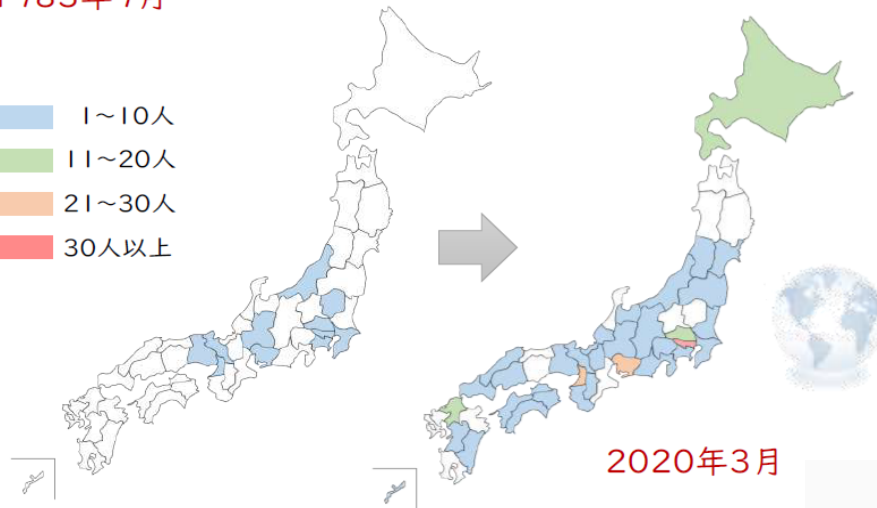
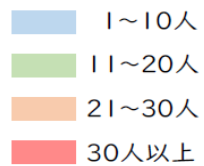
【2008年北海道総会資料の表紙より】

第一章では、  
「会の現況について」  
まとめています。



# 【第1章：会の現況】

1983年9月

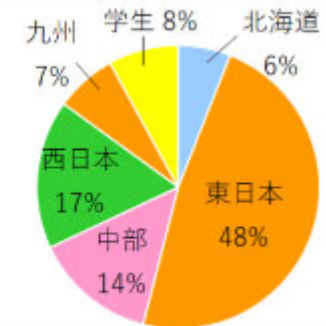


(2021年3月末現在)

正会員 345名  
学生会員 28名  
サポーター個人 156名  
サポーター団体 25団体



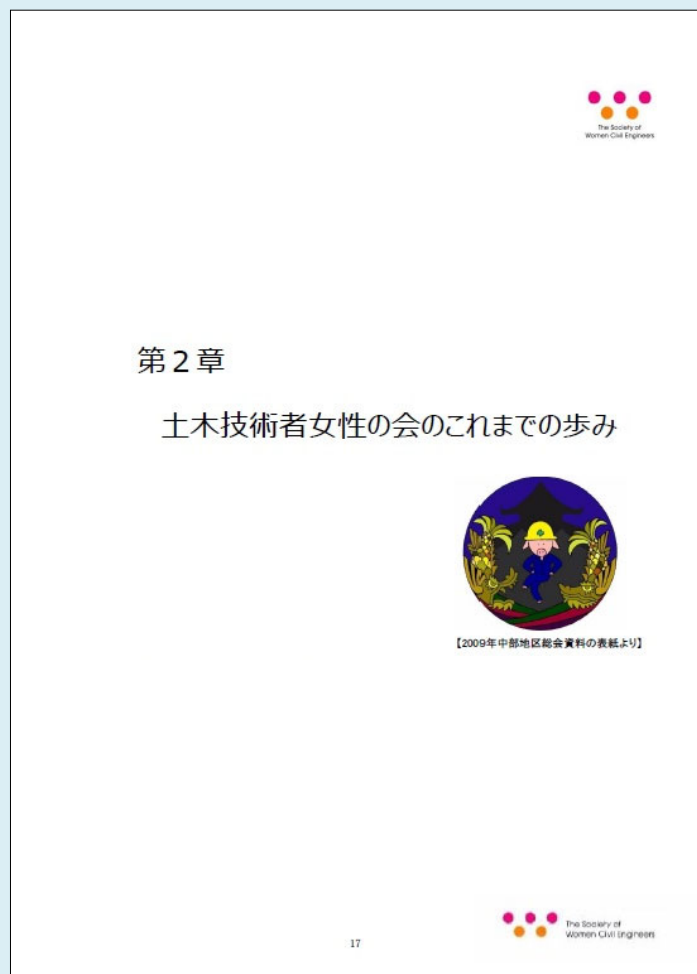
年齢の構成



支部構成

※図・グラフ等に関しては、発行時に最新版のデータに差し替え予定

# 【第2章：会のこれまでの歩み】



第2章では、  
「会のこれまでの歩み」  
をまとめています。

# 【第2章：会のこれまでの歩み】

～土木技術者女性の会 40年の歩み～

年月	出来事	会長
1983年1月	土木技術者女性の会設立 第1回総会（東京）	中本 和子
5月	第2回総会（東京）	
1984年5月	第3回総会（北沢）	
1985年5月	第4回総会（大田）	
1986年5月	第5回総会（東京）	
1987年5月	第6回総会（北沢）	
1988年5月	第7回総会（大田）	
1989年6月	第8回総会（富士宮）	
1990年6月	第9回総会（富士宮市）	
9月	土木学会年次総会 記念シンポジウム 参加協力	
1991年5月	第10回総会（大田）	
1992年5月	第11回総会（伊東）	(10周年)
1993年5月	第12回総会（岐阜）	中本 和子
1994年5月	第13回総会（東京）	藤田美穂子
1995年11月	第14回総会（北沢） シンポジウム「土木界における女性技術者の活躍」主催	
1996年5月	第15回総会（北沢）	
1997年5月	第16回総会（東京）	
11月	女性建設技術者に関するシンポジウム「建設業に女性の活躍を促すため」主催	
1998年10月	第17回総会（北沢）	藤田 美穂子
1999年3月	女子学生技術者ネットワーク（東京女性技術者の会主催） 「土木技術者を目指すあなたに贈るメッセージ Civil Engineer への道 1999年版発行」	
7月	日本学術会議・日本女性科学者の会・日本女性技術者フォーラム主催 「第11回国際女性技術者・科学者会議（ICWS11）参加協力」	
10月	第18回総会（北沢）	
2000年10月	第19回総会（徳島）	
2001年10月	第20回総会（徳島）	
2002年6月	第21回総会（北沢）	(20周年)
2003年6月	第22回総会（大田）	藤田 美穂子
7月	会報編纂のウェブページを公開	
2004年6月	第23回総会（七尾）	
2005年6月	「女性の技術者のキャリア形成の推進」に関する調査報告書（2005年版） （社）日本建設学会主催	
6月	第24回総会（北沢）	
2006年4月	女子学生技術者ネットワーク 「土木技術者を目指すあなたに贈るメッセージ Civil Engineer への道」 2006年版発行（平成17年度東京ウィメンズアライアンス活動助成事業）	
2006年6月	第25回総会（東京）	(池田真子)
2007年6月	第26回総会（京都）	
2008年6月	第27回総会（札幌）	森野 裕子
10月	女子学生技術者ネットワーク「土木の仕事を魅力としてみなちの魅力を」（東京ウィメンズアライアンス）	
2009年6月	第28回総会（北沢）	
2010年6月	第29回総会（大田）	
2011年6月	第30回総会（札幌）	藤田美穂子
2012年6月	第31回総会（東京）	(30周年)
6月	創立30周年記念「とびく未来フォーラム」開催	
2013年1月	土木学会創立100周年記念出版 「総務省が主催する女性土木技術者のためのキャリアガイド」 編集協力	
6月	第32回総会（北沢）	
2013年11月	「一般社団法人土木技術者女性の会」設立（11月15日（金）に設立）	
2014年3月	（一社）第1回総会（福岡）	
6月	（一社）第2回総会、（社）第33回総会（大田）	
6月	会報の「平成26年度女性のキャリア」発表	
2015年6月	（一社）第3回総会（札幌）	
9月	土木学会全国大会 研究討議会 「あなちの土木界のダイバーシティをインクルージョン」 開催	
12月	世界工学会（WSEC2015） 運営協力	
2016年6月	（一社）第4回総会（北沢）	渡邊 弘子
2017年3月	女子学生技術者ネットワーク 「土木技術者を目指すあなたに贈るメッセージ Civil Engineer への道 2017年版」	
6月	（一社）第5回総会（北沢）	
10月	「Civil Engineer への道 2017年版」電子ブック公開	
2018年9月	（一社）第6回総会（大田）	
11月	土木学会全国大会「賞状授賞式」 発表	
2019年4月	作成協力した「プロジェクトで働く土木の女性（第1期）」の巻の編集より出版	
6月	（一社）第7回総会（東京）	
8月	第8回アジア土木技術者国際会議（CICAP21） 参加	
11月	作成協力した「プロジェクトで働く土木の女性（第2期）」の巻の編集より出版	
2020年4月	「第1期」出版	中本 和子
6月	（一社）第8回総会（札幌/オンライン）	
6月	（一社）第9回総会（北沢/オンライン）	藤田美穂子
2022年6月	（一社）第10回総会（大田） 予定	(40周年)

会の40年の歩みを年表にまとめています

## 【第2章：会のこれまでの歩み】

会の40年の歩みを10年ごとに区切り

①黎明期 (1982年～1991年)

②充実期 (1992年～2001年) ←阪神淡路大震災

③飛躍期 (2002年～2012年) ←東日本大震災

④発展期 (2013年～2022年) ←コロナ禍

と名付けて、分類しました。

# 【第2章：会のこれまでの歩み】

## ①黎明期

**黎明期——設立(1982年)から10年  
目まで(1991年)**

「当時は土木学会と協賛関係がなかったため、この会だけで、その後の活動も展開するつもりはなかった。しかし、1982年に設立された。1983年から1984年にかけて、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。1985年には、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。1985年には、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。

① 土木学会女性会の発祥はここです  
土木学会の会報「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。1985年には、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。

## ②充実期

**充実期——11年目(1992年)から20  
年目まで(2001年)**

1. 土木学会女性会の会報の充実  
土木学会の会報「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。1985年には、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。

2. 会報の充実  
土木学会の会報「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。1985年には、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。

## ③飛躍期

**飛躍期——21年目(2002年)から30  
年目まで(2011年)**

1. 女性会の活性化  
土木学会の会報「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。1985年には、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。

2. 認定NPO法人としての活動  
土木学会の会報「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。1985年には、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。

## ④発展期

**発展期——31年目(2012年)から40  
年目まで(2021年)**

1. 経営理念から一般社団法人へ  
土木学会の会報「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。1985年には、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。

2. 認定NPO法人としての活動  
土木学会の会報「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。1985年には、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。

**飛躍期——21年目(2002年)から30  
年目まで(2011年)**

1. 女性会の活性化  
土木学会の会報「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。1985年には、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。

2. 認定NPO法人としての活動  
土木学会の会報「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。1985年には、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。

**発展期——31年目(2012年)から40  
年目まで(2021年)**

1. 経営理念から一般社団法人へ  
土木学会の会報「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。1985年には、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。

2. 認定NPO法人としての活動  
土木学会の会報「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。1985年には、土木学会の会報に「女性会」の欄が設けられ、活動の場が広がった。

黎明期では、設立のきっかけとなった土木学会の座談会の様子や、その後の出席者の素早い行動から設立への実現、また風当たりの強い当時の状況の中で、前向きかつ積極的に活動する先輩方の様子を伺うことができます。



# 【第2章：会のこれまでの歩み】

## ～ペシャワール会 中村哲医師との縁～



**【コラム】**  
ペシャワール会代表 中村 哲氏から  
いただいたメッセージをつなぐ

① 中村 哲氏とのつながり  
土木技術者女性の会は、2011年（平成23年）に創立30周年を迎えようとしています。その中で日本土木学会を創始し、安心・安全な社会基盤の構築という土木の本質的な使命が揺らがない力を感じてきました。こうした状況の中、「いのちを守る土木の未来」をテーマとした創立30周年記念イベントを開催しています。その中で、中村先生との出会いがありました。記念行事の締めくくりとして、土木の原点を再考し新しい世代に土木の意義を伝えることを目的とした「どぶくろ未来フォーラム」を開催し、そこで中村先生にアパガのスタンディングオベーションを通して土木の原点を語って頂き、フォーラムの冒頭に「どぶくろ未来宣言」を朗読し、という無類ともいえる企画を開催しました。

② 中村先生の別荘が完成  
2011年（平成23年）12月11日、土木学会が主催する中村先生の別荘完成パーティー、終了直前に、先生と直線距離で数キロ離れたところにあるからかもしれないということ、当会の会員の御厚意を集めた「いのちのび」ボスカーをもって先生の別荘に到着しました。

③ 中村先生の遺志を継ぐ  
2019年12月に突然病倒了。中村先生の別荘でした。当会のメンバーによる追善活動があり、2020年（令和2年）2月に東京都で開かれた「中村哲先生をしのぶ会」に参加し、中村先生にこれまでのご縁に感謝すると共に、中村先生の遺志を土木技術者として継承することを誓いました。

④ 中村先生の遺志を継ぐ  
私たち土木技術者女性の会は、これからは、先生からいただいた「応援メッセージ」に込められた思いを、次世代に伝える努力を惜しまず、引き続き活動してまいります。

先生との出会いの心より感謝申し上げます。

**中村哲医師からの応援メッセージ**

ペシャワール会  
PESHAWAR SOCIETY

百の  
一本の  
水路を！  
診療所より

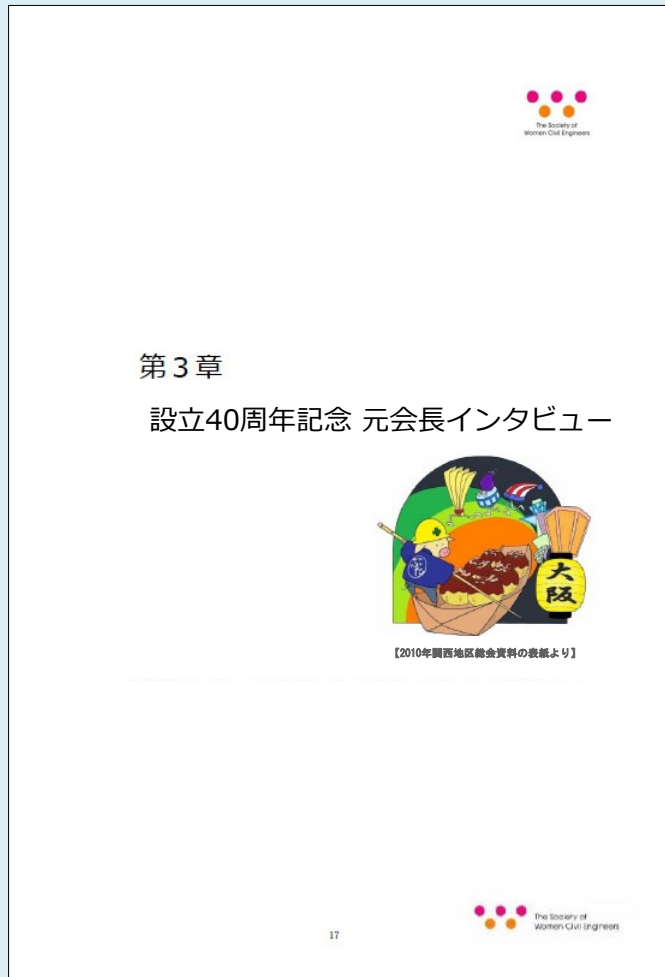
【土木技術者女性の会 30周年記念 イベント】中村哲医師からの応援メッセージ

中村先生、ご冥途まで安らぎを祈ります。

土木技術者女性の会 代表 中村 哲

設立30周年イベントにコメントを寄せてくださった中村医師。突然の訃報を受け、出席してお別れの会にて、会の代表が心から哀悼の意をお伝えした経過を掲載しました。

# 【第3章：元会長インタビュー】



第3章では、  
歴代の会長に、各支部の会員がインタビューとなって、「過去」「現在」「未来」をテーマに、会の活動を含めた当時の思いや、ご自身の人生、そして若手会員に向けたメッセージなどについて伺った話をまとめています。

# 【第3章：元会長インタビュー】



**初代会長 寺本和子さん**

**第2代会長 正木啓子さん**

**第3代会長 所靖子さん**

**第4代会長 佐藤厚子さん**

**第5代会長 桑野玲子さん**

**第6代会長 渡邊弘子さん**

**初代会長から前会長の6名の方々にインタビュー等を行いました。設立の経緯だけでなく、なぜ土木界を目指したのか、仕事のやりがいや当時の働き方、日常生活での工夫など、多岐にわたるお話を伺うことができました。**



# 【特別寄稿】

【特別寄稿】

### 土木技術者女性の会 設立40周年に寄せて



山田 邦博 顧問  
(国土交通省 国土交通事務次官)

土木技術者女性の会設立40周年おめでとうございます。  
通常、設立から10～20年経過すると、ある程度会の目的も達成され  
また社会的・経済的状況も異なってくるため、会を閉じるか、少なくとも  
目的は新たにリニューアルすることが望ましいです。会を立ち上げて40年が経つてもなお、当初の目的が色あせることな  
く、なおかつ、従来の活動をされておられることにも心から敬意を表します。それだけ、皆さんが取り組んでおられ  
る課題は、普遍的かつ重要なものだという認識かと思えます。(なかなか解決の難しい課題であるとも言えますが)  
そのような課題に挑戦しておられる「土木技術者女性の会」に、私が初めてお会いしたのは、2015(平成27)年秋  
が国土交通省近畿地方整備局長の時に参加した、ある専門の紙上座談会でした。私は、それまでいくつものポストで  
建設業に働く人の知恵や安全といった仕事に携わっていて、その一方で女性土木技術者の方とも何人も意見交換をし  
ていました。ただ、その紙上座談会で感じたのは、それまで会った女性技術者とは違う、別の力が抜けた自然体で意  
見を言う方々だな、ということでした。そこで座談会が終わった後、私から「今日行った様々な課題については、  
男性も関わる課題がほとんどなので、女性だけで議論していないで男性との意見交換もすべき、自分を会員にしてほ  
しい」とお願いしました。会の規約では男性は会員になれないので、色々ご容赦していただいて、「押し売り」編纂  
にいたしました。

何回か、会のパネルディスカッションや講演会に出張させていただきました。彼等に、女性技術者の方が「課題」と  
されている「男性」とは、男性土木関係者だけでなく、ご本人も含めた男性社会だということ、子育てしながら  
のキャリアアップ、離職しやすい仕事に就かないことなど、大きな視点から様々な問題点を色々と聞くことができました。  
彼等の課題に対しては、なかなか解決策がすぐには見つからないのですが、皆さんは仕事が入りきり、家庭手前  
にも充実感を持っている立派な方たちということがよくわかりました。そのような方々だったら、いつか解決策を  
一緒に見つけることができると感じています。(コロナ禍以前のことで、子育ての  
忙しい期間、会合の後の懇親会も、バギー会  
を兼ねていただきながら、今後の女性技術者のあ  
り方などを論じて《もちろん懇親会もいっぱ  
い楽しみました》、時間が来たらさっさと帰宅  
の途に歩く、だらだらと話を聞く男どもとは  
一風違う気がしました。)

パンデミックの状況では、社会が大きく変  
わると思います。確かに、在宅勤務が増えた  
時は、私よりも若いほうが時間的使い方が賢  
いように思いました。職場という一つの場での  
しか頼りてこなかった人間より、職場と家  
庭と地域という複数の場で活動してきた人間  
のほうが、より活躍できる時代があるのかも  
しれません。土木技術者女性の会の益々の発展を祈ります。

山田氏は、2016年に当会の顧問に就任され、以降、会の活動を応援してくださっています。

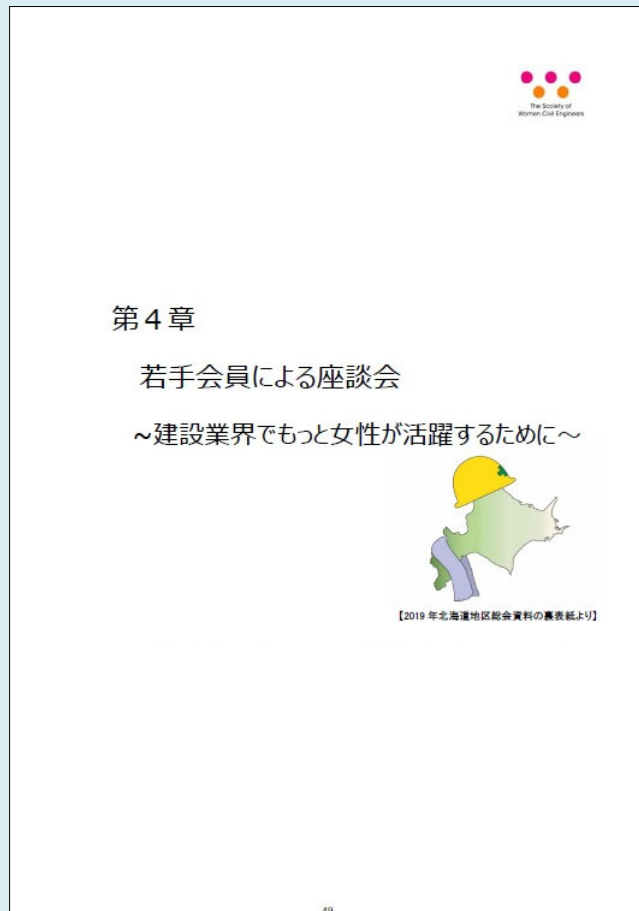


山田顧問を囲んだ座談会を伝える輪から(2021年3月)

特別寄稿として、  
顧問の山田邦博氏から  
コメントをいただきました。

設立時の目的が色あせること  
なく現在の会活動に生きている  
ことについて、大きく評価  
していただいています。

# 【第4章：若手会員による座談会】



第4章では、  
様々な業種の30歳～40歳の若  
手会員に集まっていたいただき座談  
会を開催しました。  
コロナ禍のため、オンラインに  
よる開催となりましたが、全国  
からの参加が可能となり、トー  
クテーマに沿った熱い議論が交  
わされました。その模様をまと  
めています。

# 【第4章：若手会員による座談会】



座談会では、建設業界で女性がもっと活躍するために必要と思われる

- ・精神的安心感
- ・働きやすさ
- ・働き甲斐

の3点に絞って議論しています。

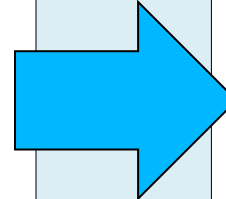
会の設立からこれまでの歴史を踏まえて、今、そしてこれから、当会は、そして女性土木技術者は、どこに何に焦点をあてて、活動していくべきか、現在のリアルな悩みを共有しながら議論を交わしました。

# 【将来構想WG報告書について】

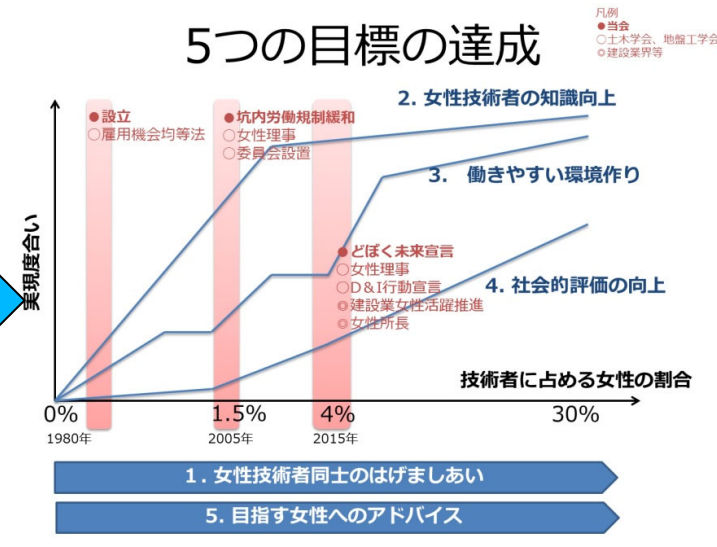
## 会の目的



- ①土木界で働く女性技術者同士のはげましあい
- ②土木界で働く女性技術者の知識向上
- ③女性にとって魅力のある、  
働きやすい土木界の環境づくり
- ④女性土木技術者の社会的評価の向上
- ⑤土木技術者を目指す女性へのアドバイス



## 5つの目標の達成



2016年に発表された将来構想WGの報告書では、会の目的に立ち返り、その解釈を改めて考察し、その達成度合いを図式化しました。図からも分かるように、会の目的の5項目は、今の時代にも有用であり、今後もその目的を重視しながらも、会のあるべき方向性について示しています。

# 【さいごに】

## 会員の皆さまへ

40周年記念誌は、本来であれば、2022年開催の第10回通常総会でお披露目する予定でした。しかし、編集するうち資料が膨大に増えたことから、現在鋭意作業中です。

お待たせしてしまい大変申し訳ありませんが、公開までもう少しお時間を頂戴したく、何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

記念誌の完成まで最終段階に差し掛かりました。WGメンバー一丸となって、完成まで漕ぎつけるよう頑張りますので、楽しみにお待ちいただければ幸いです。

40周年記念誌作成WGリーダー 松本香澄